

授業概要

初級簿記や中級簿記で習得した内容に基づいて、より多くの取引を理解し、記帳できるようになることを授業の目標とする。具体的には、日商簿記検定の2級程度の範囲のうち、個別財務諸表に係わる日常の取引と決算を講義する予定である。授業では、取引等の説明が多くなるものの、目標は受講者が実際に会計処理を理解して、記帳できるようになることなので、授業中はもとより、授業以外の時間でも積極的に演習および復習することを望む。

授業計画

第 1 回	現金預金
第 2 回	手形
第 3 回	有価証券①（期中取引）
第 4 回	有価証券②（期末評価）
第 5 回	その他の債権・債務、商品売買①（売上原価対立法）
第 6 回	商品売買②（決算整理など）
第 7 回	有形固定資産①（減価償却）
第 8 回	有形固定資産②（取得から除却まで）
第 9 回	無形固定資産、投資その他の資産
第 10 回	引当金
第 11 回	純資産①（株式の発行など）
第 12 回	純資産②（剰余金の処分など）
第 13 回	税金
第 14 回	仕訳に係わる演習
第 15 回	決算に係わる演習
第 16 回	定期試験

※ 上記内容はたまかな目安であり、受講者の学習状況をみて適宜範囲や順番を変更することがある。

到達目標

- ・初級簿記や中級簿記で学んだ取引の範囲よりさらに多くの取引を理解し、記帳できるようになる。
- ・株式会社に特有な取引の基礎（純資産）を理解し、記帳できるようになる。

履修上の注意

- ・少なくとも、初級簿記の単位を取得し、中級簿記を履修していること。
（習熟度に関する質問には、第 1 回目の授業時に回答します。）
- ・テキストは毎年改訂されるので、最新版を用意すること。

予習・復習

- ・初級簿記や中級簿記、または簿記検定受験ですでに学んだ内容をあらかじめ復習して授業に臨むこと。
- ・授業で新たに学んだ内容は（参考文献の）ワークブックなどを通して積極的に復習すること。

評価方法

- ・通常講義時の演習30%と定期試験（筆記）70%程度の配分を予定している。
- ・規定の出席回数を満たしていない場合には原則として単位を認定しない。

テキスト

- ・教科書名：『検定 簿記2級 商業簿記』
- ・著者名：渡部 裕巨・片山 覚・北村 敬子
- ・出版社名：中央経済社
（参考文献）・渡部裕巨・片山覚・北村敬子編著『検定 簿記ワークブック 2級 商業簿記』中央経済社